# 昭和55年度の
# 畜産関係重点施策

岡山県農林部畜産課

昭和五十五年度の県予算は、国と同様に財政再建を主眼に、事務事業の見直しによる歳出面の節減と、一方では大型プロジェクト、福祉、教育、単県公共事業を中心に省エネ対策など、限られた厳しい財源見通しの中で、重点的な編成が行われました。

畜産関係の人件費を除く一般会計の予算額は、四十九億八千万円で、前年度の六月補正後に比べ十二%の増加となり、県全体の予算の伸び率八・八%を上回る伸びとなっております。

主要施策としては、長期的な視点に立った畜産物の安定的供給体制の確立、畜産経営の体質改善による健全な発展のため、①粗飼料の生産と有効利用を中心とした飼料対策の推進、②肉用牛の生産振興対策の強化、③畜産物の流通改善などを重点とした、生産から流通にわたる各施策を実施するとともに、④畜産の生産技術の開発のため試験研究を強化することとしています。

以下、新規事業を中心として畜産施策の推進方針とその概要を説明します。

## 自給飼料対策

酪農経営の体質改善を図るため、自給飼料基盤の強化や、粗飼料流通を積極的に推進するとともに、食肉需要の増大に対応して、肉用牛の産地づくりのため、真南地区（勝山町、落合町）での県営草地開発の継続実施、団体営草地開発整備継続十二地区・新規四地区　公共育成牧場整備　継続二地区、農業公社牧場整備　継続二地区、公社営畜産基地整備　継続二地区（津山・久米地区）、里山開発奨励　三〇haなどを実施して、大家畜の飼料生産基盤の整備を進める。

又、水田利用再編対策の強化に対応して、転換水田など既耕地への飼料作物の作付けと定着化をすすめるため、水田裏飼料作物生産奨励、増反奨励一三二ha・借地等奨励三二一ha、自給飼料生産向上特別対策　継続十六地区　自給飼料生産総合振興　新規十地区を実施するほか、新規事業として、耕種農家群の転作飼料作物を畜産農家群へ広域的に流通させるため、転作飼料作物流通促進パイロット事業を四地区で実施することとしている。

そのほか、岡山中部地域の岡山市他三市七町において、将来畜産主産地として発展しうる適地調査を行い、畜産基地建設に必要な基本計画を作成する。

## 家畜・畜産物の生産対策

### （乳用牛）

生乳の需給不均衡から、昨年生乳の計画生産を実施したが、本年度も引続き、生乳の需給均衡に配慮した酪農振興を図るため、乳用牛の改良事業として、乳用種雄牛後代検定事業、乳用牛群改良推進事業、乳用牛導入事業の実施、酪農ヘルパー組織の育成を継続十二地区・新規二地区

目　次


昭和五五年度の畜産関係重点施策　岡山県　畜産課……1
昭和五五年度試験研究の方向と重点課題
①養鶏試験場……3
②酪農試験場……5
③和牛試験場……7
私の趣味「油絵の仲間たち」竹原　宏……9
ニュースのページ……10
座　談　会　県外購買者の意見をきく（岡山県産和牛について）……12
昭和五五年度事業計画……16
岡山県経済連……17
生乳の計画生産……18
岡山県酪連
振興局便り……20
倉敷地方振興局
家保のページ……
岡山家畜保健衛生所





あなたの家畜をハエ・蚊から守る

新製品　動物用

ヤシマフタスロン

NZK

日本全薬工業株式会社

郡山市安積町笹川字平の上1－1

㈲美津和薬品商会

本　社　〒708 津山市井ノ口25　卸売センター内
TEL（08682）2－7014

有効成分　〈製品100ｇ中〉　フタルスリン（ネオピナミン）……2.0ｇ
レスメトリン（クリスロン）……0.4ｇ

適用害虫　ハエ・蚊・ゴキブリ（油虫）の駆除

特　長
○抵抗性害虫（イエバエ）にもすばやいききめ。
○人畜に対して高い安全性。
○畜産物を汚さない――残留・蓄積の心配がない――
**従来のピレスロイド系殺虫剤を更に改良しました。**
――２種類のピレスロイドを配合した製剤です※――
●速効的なノックダウン作用に加え致死効果の点でも安定した殺虫剤です。
●残効性も期待できます。

（※参考）
**レスメトリン（クリスロン）**は従来の合成ピレスロイドと比べて，致死効果を更に高め，化学的にも安定で残留効果も期待できる新合成ピレスロイドです。
ヤシマフタスロンは，この成分の配合により，さらに確かな効果が期待できるピレスロイド系 動物用 殺虫剤としました。

おすすめします!!今日からの殺虫剤
ピレスロイド系 動物用 ヤシマフタスロン

〔ゼンヤクの固型塩グループ〕
〈一般用〉　グリン鉱塩
〈グラステタニー様疾患予防用〉　鉱塩エム
〈肥育牛の尿結石症予防用〉
固型 カウストン

ビタミン・ミネラル総合飼料添加剤
バイミルク

及び、酪農の担い手を養成する中国四国酪農大学校の教育施設整備と運営改善に努める。

新規には、昭和五十五年度において、国の「農産物の需用と生産の長期見通し」及び「酪農近代化基本方針」の改正が検討されているので、これに対応して、昭和六十五年を目標とした第四次の県酪農近代化計画の作成、並びに市町村酪農近代化計画の作成指導を行う。

**（肉用牛）**

牛肉需要の増大に対処して、牛肉の安定的供給体制の確立と中国山地農業の振興を重点施策として推進するため、肉用牛生産適地において、肉用牛の子牛生産から肥育に至る地域内一貫経営を推進する、肉用牛集約生産基地育成事業を、継続五団地・新規四団地で実施、里山利用による山地放牧肉用牛緊急特別対策事業で一〇〇頭の放牧奨励と県有牛貸付六〇頭の実施、高齢者等肉用牛飼育事業で市町村有二〇〇頭・農協有六〇頭の貸付けを行うほか、新規に肉用牛繁殖農家の適正な経営規模拡大（五頭以上）を図るため、肉用牛規模拡大促進特別事業によって一〇団地のミニ団地づくりを実施する。

又、肉用牛の改良増殖を推進するため肉用牛集団育種推進事業において優良種畜として認定された基礎雌牛九〇〇頭に対して指定交配し、優良雌子牛一二〇頭の保留、雄子牛二〇頭の産肉能力検定を実施して、本県肉用牛の銘柄確立に努める。

**（豚・鶏）**

豚については、県産肉豚の産肉、肉質の向上を促進するため、優良品種豚適正利用推進事業で雄三頭、雌九〇頭の種豚貸付け、山村地域農家の所得増大を図るため、養豚特別対策事業で雌三〇〇頭、雄二〇頭の種豚導入と施設の整備五〇戸を実施して繁殖豚農家を育成する。

鶏については、組織的な計画生産を推進して経営の安定に努める他、新規に優良国産鶏の農家適応試験事業を実施する。

## 畜産経営環境の整備

畜産経営に伴う環境汚染対策は、耕種農家と畜産農家との組織的な連けいによる、家畜ふん尿の土地還元を基本とし、その定着化をはかっているが、引続き、倉敷地域での畜産経営環境整備基礎調査を実施し、畜産複合地域環境対策事業で畜産経営群と耕種経営群との連けいにより家畜ふん尿の有効利用を行う地域複合型五カ所を整備する。

## 畜産物の価格安定と流通合理化

国の制度として実施されている家畜、畜産物の価格安定制度の円滑な運用を図っていくが、これを補完して県内畜産農家の経営安定を図るため、肉豚価格安定対策事業で契約肉豚に対して補てん金交付のための積立金の一部を助成し、鶏卵価格安定対策事業で卵価安定基金の加入者に対し積立金の一部を助成する。

新規事業として、肉用子牛生産経営安定事業で肉用子牛の市場での価格を支持するため、補給金の一部を交付するための交付準備金四、〇〇〇頭分を積立てる。

又、畜産物の流通合理化対策として、食肉需要の増大と流通形態の動向に対応して、広域食肉流通センター建設を哲多町に進めるとともに、県営食肉地方卸売市場及び県食肉センターの整備によって、①牛豚肉処理のオンライン化施設の整備、②温と体取引から冷と体取引への移行に必要な冷凍施設の整備、③牛枝肉のカット処理施設を整備するなど、食肉処理の近代化と取引の合理化を進める。

なお、昭和五十五年度の国が定める畜産物の価格は次のとおり決定している。

**（牛　乳）**

①加工原料乳保証価格　一kg当たり八八円八七銭（前年度据置き）

②加工原料乳基準取引価格　一kg当たり六四円三〇銭（前年度据置き）

③生産者補給金に係る加工原料乳の限度数量　一九三万トン（前年度据置き）

（参考）岡山県　八三四一トン（前年度に比べ八〇トン減）

**（指定食肉）**

①牛肉（去勢和牛肉）

安定基準価格　一kg　一三五七円

（前年度に比べ五四円引上げ）

安定上位価格　一kg　一七六三円

（前年度に比べ三三円引上げ）

②牛肉（乳用雄牛）

安定基準価格　一kg　一一〇五円

（前年度に比べ四四円引上げ）

③豚肉（湯はぎ法によるもの）

安定基準価格　一kg　五四七円

（前年度に比べ一二円引下げ）

安定上位価格　一kg　七一一円

（前年度に比べ二七円引上げ）

以上のように、牛乳・豚肉の計画生産から価格の据置きあるいは引下げがあり、牛肉の生産奨励上から価格の引上げがあった。

## 家畜衛生対策

家畜伝染病予防対策を推進するため、引続き、家畜伝染病予防事業、自衛防疫強化総合対策事業等を実施するとともに飼養形態の多頭化、集団化に伴う飼養環境の悪化、衛生管理の不良などによる慢性伝染性疾病の多発をはじめ、各種の生産性阻害要因が見られるので、疾病予防、飼養環境の改善など衛生対策を進めていく。

さらに、本年から実施される薬事法の改正に伴い、動物用医薬品の適正使用を指導し、畜産物への残留防止による安全な畜産食品の供給を図っていく。

## 新技術の開発と畜産技術指導

畜産経営の安定と生産性の向上を進めるため、実用的な課題に重点をおいて試験研究の充実に努めるが、水田利用再編対策の強化や、石油エネルギー情勢に対応して、地域農業の振興のため緊急に解明を必要としている課題として、新たに酪農と関連する地域農業複合化技術開発試験「水田の高度利用による水稲・酪農・野菜の安定生産技術」、肉用牛を中心とした「中国山地における林畜複合生産技術確立の研究」省資源・省エネルギー技術として「重油代替エネルギー利用による育すう技術の確立」、「家畜ふん発酵熟利用」などに取組むこととしている。

又、確立された技術の普及滲透にあたっては、関係機関と密接な連けいを保ちながら普及指導にあたるとともに、畜産コンサルタント事業等を通じた指導も併せて実施していくこととしている。

以上、紙面の都合で事業の内容が、説明不足となりましたが、畜産をめぐる情勢は今後一層厳しいものがあると予測されるので、畜産関係者はもとより、広く各界の協力を得ながら、畜産行政の円滑な推進に努め、畜産農家の経営安定と同時に、県民に対する畜産物供給体制づくりに努めてまいりたいと考えております。

# 昭和55年度試験研究の方向と重点課題

岡山県養鶏試験場

本県における養鶏産業は、採卵鶏飼養羽数では昭和四十五年まで急速な伸びがみられましたが、その後は六百万羽弱でほぼ横ばいの羽数で推移しており、飼養管理技術あるいは産卵能力の向上などから鶏卵生産量は若干の増加はありますが年間七万トン前後の数値を示しています。一方ブロイラー羽数は昭和四十五年以降年率一〇パーセント前後の増羽を示し、昭和五十三年の出荷羽数は遂に一千万羽を突破しました。しかしながら、飼料と育成用の温源である石油のほとんどを外国に依存している養鶏産業においては、他産業にもみられるように誠にきびしい情勢下にあることが痛感されます。

養鶏試験場で行う試験研究は、昭和五十年に策定された「岡山県農林漁業試験研究推進構想」を基軸として、社会、経済情勢など環境の変化に対応しながら、実施してきましたが、以下本年度の試験研究課題の方向と重点課題について紹介します。

## 一、管理関係

**①育成期における飼養環境調節と飼料効率の改善**

**②育成期及び成鶏期の飼養環境調節技術の体系化**

この二つの課題は五十三～五十五年度の三カ年計画で行っている総合助成事業によるもので、①の試験では、四十七年度から六か年間、産卵鶏の環境要因と生産性について種々検討を行ったのにつづき、このたびの三か年では育成期のなかでも、とくに大雛期の環境が飼料効率に及ぼす影響について検討を加え飼料効率の改善方法を究明しようとするものです。②はウインドウレス鶏舎における光線管理技術を体系化する目的で実施するもので、制限給餌又は絶食と光線管理方法を組合せて鶏の性成熟や生産性に及ぼす効果について試験調査するものです。

**③卵殻質改善のための鶏の改良法並びに飼養管理技術の確立**

卵殻質の良否は鶏卵の生産、流通において事故卵発生の要因となり卵殻質改善は養鶏産業界の願望の一つとなっています。卵殻質に関与する要因としては、遺伝、栄養、環境など多種類のものがあるので、農林水産省畜試を中心として部門ごとに分担県で行い、このうち当場は環境との関連を五十四年度から四か年計画で実施しています。

**④民間鶏舎における飼養環境の実態と改善に関する調査**

民間鶏舎の舎内環境を試験場から出向いて調査し、その鶏舎の環境条件としての問題点を抽出し、その改善のためのアドバイスはもちろんのこと、これらの問題点が他の多くの養鶏場にも共通すると予測される事項については、問題点を整理して環境改善の指導指針とすることを目的に実施するもので、本年度だけでは多くの事例についての取組みは人容からみて不可能ですが、年次的に採卵鶏、ブロイラーそれぞれについて鶏舎規模別に実施していく予定にしています。

**⑤重油代替エネルギー利用による育すう技術の確立**

省エネルギーの重要性は全世界の課題となっていますが、養鶏部門では雛の育成と鶏ふん処理には従来から多量の石油

エネルギーが使われてきました。幸いにも鶏ふん処理には発酵処理とか、太陽エネルギー利用による方法がかなり技術が進んできました。しかし育雛とくにブロイラーの育成には一羽の育成に五、〇〇〇Kcal前後のエネルギー（重油換算〇・五ℓ）が消費されています。これに代わる熱源としてオガクズ、鶏ふんその他未利用のエネルギー源を用いての育雛を試みようと本年度から開始するものです。

**⑥鶏舎内における細霧冷却による夏期の熱射病と防塵対策**

前年度においては、ブロイラーの夏期の熱射病と防塵対策としてウインドウレス鶏舎で細霧を舎内に噴霧し、その気化熱を応用した舎内温度の低下と平飼いブロイラーの問題点である塵埃の防止効果をみるための試験を行い、良好な成績が得られました。

本年度からは開放型鶏舎の産卵鶏を用いて温度低下の効果及びロイコチトゾーン症の中間宿主であるニワトリヌカカの防除について検討を加えることにしています。

その他管理関係では前年度に引続いて

**⑦産卵鶏ケージの小型化に関する試験**

**⑧ブロイラー飼育技術の確立**

について試験を行いますが、⑧では今年度からブロイラーの高密度飼育の方法として、立体飼育による問題点の解明、とくに現在の平飼いはコクシジウムのほか細菌性疾病等による損耗や、出荷労力を多く必要とすることなど改善点もあるので、これらの立体と、平飼い方式を環境衛生と省力の面から比較検討しようとするものです。

## 二、飼料関係

**⑨卵用鶏の飼料給与体系が省力機械化鶏舎における経済性に及ぼす影響**

育成期の制限給餌は、おおむねその技術確立ができ、また成鶏期の絶食あるいは制限給餌による産卵調整技術についても、五十四年度でその実用化の見通しもついたことから、これらの個別的な試験は終了し、本年度は前年度に引続いて、産卵期の時期別の養分要求量にスライドした定量給餌を行い、飼料の節減効果を実証しようとするものです。

## 三、育種関係

**⑩卵用鶏の新系統造成**

**⑪国産実用鶏候補の性能調査**

**⑫優良鶏農家適応試験**

卵用鶏の新系統を造成する目的で育種をすすめていますが、とくに飼料効率を高めるための鶏の小格地を目標とした育種をすすめる一方、コマーシャル鶏の活用による育種を行い、その能力も年々向上していますので、さらに経済性の高い実用鶏作出に育種の継続を行います。⑪の国産実用鶏候補の性能調査は、国の鶏改良施設（白河種畜牧場）で作出された実用鶏候補の適地性検定として、当場をはじめ、全国十八道県で行っているものですが、これらの検定から選抜された優良鶏（系統）のうち実用鶏として普及に移行できるものについて、農家で実際に飼育してもらい国産鶏としてPRを行うことになり、本県でも今年度から新しい事業として取組むことになっています。

**⑬卵肉兼用種の能力改善**

横斑プリマスロック、名古屋種、ローズアイランドレッドなど卵肉兼用種は、産卵能力は白色レグホン系には及ばないものの、その肉質の良さ、飼いやすさなどからその飼育熱は静かなブームとなってきました。しかしながら、産卵性、産肉性を少しでも向上できれば卵肉兼用種はさらに、その価値も見直されるものと思われることから、今年度もさらに試験調査を継続していきます。

## 四、生産物関係

**⑭成鶏肉（廃鶏肉）利用に関する研究**

**⑮家禽肉の処理加工に関する研究**

この二つの課題は近年成鶏肉の価格が低迷し、その高度利用が望まれているので、肉質の改善と加工食品としての利用技術について検討を行います。とくに前年度までは成鶏肉のソーセージ試作にとりくみましたが、本年度はプレスハムの試作について実施する予定です。

## 五、その他

衛生関係ではロイコチトゾーン症の予防に関する試験、水禽関係では肉用アヒルの飼料給与基準の設定についても試験することにしています。

## 六、重点課題

以上本年度に当場で実施する試験研究課題の概略を述べましたが、試験研究の成果は即養鶏農家への技術として普及し活用されることが目標であります。したがって、本年度から開始した新規課題については、現在の養鶏における問題点に対応して取り組むものであるので、これらは最重点課題としていきたいと思います。もちろん前年度から継続課題も重要なものばかりで、軽視することはできませんが、養鶏経営の今後の方向を洞（どう）察した先取り的な取り組みも重要であると考えます。当養鶏試験場では、去る四月下旬県内の養鶏関係者（主として生産者）十数名の方々にお集りの労を煩わし、技術的にみた現在の養鶏の問題点と、今後の試験研究に望まれる事項について御意見を拝聴する席をつくりました。本稿では、この御意見等については省略しますが、種々検討を加え今後の試験研究の取り組みにあたって参考にしたいと思っておりますのでこれからも関係各位の御意見御助言をお願いします。

（業務部長　岩本　敏雄）



# 昭和55年度試験研究の重点方向と主要課題

岡山県酪農試験場

## 一、はじめに

最近の畜産を取りまく諸情勢は、飼料価格の高騰・畜産物の需給不均衡・畜産物輸入の外圧・資源・エネルギーの制約など極めて厳しい状況にある。

このような情勢のもとで県下の酪農は今や農業粗生産額中、米に次ぐ第二位の中核的作目となっているが、生乳の生産は、既に第三次酪農近代化計画による昭和六十年目標数量に近く、やや生産過剰気味であり、その対応策として、生乳の需給均衡と、合理的生産技術の導入による生産費の低減・品質の改善が重要な課題となっている。

また、県下の養豚については、昭和五十七年度から稼動が予定されている広域食肉流通センターの設置を控え、今後更に安定した肉豚の生産が必要であるが、豚価は低迷を続けており、優良種豚の確保による繁殖豚の質的改善や繁殖率向上、及び肉質向上などによる経営内容の改善とともに、養豚生産の底辺拡大のための山村地域農家経営の健全化と団地対応の各種技術の開発普及が望まれている。

一方、畜産環境保全については、貴重な有機物質源である家畜ふん尿を土地還元して、いわゆる自然の循環サイクルに乗せることが望ましく、そのためには耕種農家と畜産農家の組織的な結合が重要であり、農家で簡易に取り組める処理技術の開発実証が要請されている。

## 二、研究の重点方向

前述の背景を踏まえて、畜産の使命である良質な動物性蛋白質食糧の安定的確保に視点をおきながら、農家の経営改善のために直接必要とする実用化技術の開発や体系化を図るため、重点方向を次のとおりとして研究を推進する。

㈠ 畜産物の品質改善と生産費の低減のための技術開発を行う。特に水田利用再編、山地の活用などによる自給飼料の増産確保とその有効利用により、自給率の向上を図るための技術研究に取り組む。

㈡ 肉資源の増産確保のための技術開発を行う。特に豚については、優良繁殖豚により改良を促進し、健全な養豚農家を育成し、養豚経営の底辺拡大に必要な技術研究とその体系化に取り組む。

㈢ 地域ぐるみ営農推進のため、地域農業複合化技術の開発とその組織化の研究を行う。特に耕種農家と畜産農家の有機的結合のために必要な技術の確立をねらいとした、畜産環境の整備、地力の増強、資源の有効利用による省エネルギー化などの研究に取り組む。

㈣ 開発技術の早期公表と、効果的な展示普及について、特に留意する。

## 三、主要な試験研究課題

昭和五十五年度からは、行政・普及・農試の協力を得て場の全組織あげて地域農業複合化技術開発試験に取り組むこととしているが、このほかに酪農部一三課題、養豚部七課題を取り上げており、各部門別の主要課題の概要は次のとおりである。

### 地域農業複合化関係

**㈠地域農業複合化技術開発試験**

昭和五十三年度から耕種農家と畜産農家の有機的結合など地域複合化による経営の安定や、環境問題などの解決をねらいとした研究が行われ、当場も岡山農試に共同して牛窓町において野菜残渣の飼料化を担当してきたが、更に昭和五十五年度から新規に四年間当場が主査となり、農試をはじめ行政・普及の協力を得て落合町古見地域を対象に取り組むこととなった。テーマは「水田の高度利用による水稲、酪農、野菜の安定生産技術の確立」であり、「水田における作物生産と地力保全」、「粗飼料を中心とした合理的生乳生産技術の確立」、「転換畑における野菜の生産安定化技術の確立」、「地域農業複合化に関する経営的研究」を四本柱として、特に当場では良質厩肥の生産利用技術、粗飼料の流通化技術、高栄養粗飼料の生産とその利用技術・粗飼料利用による飼養技術の体系化などを解明して、現地での展示実証を行い、他地域への波及を図り、地域農政推進に資する。

### 酪農部ー乳牛関係

**㈠自給飼料の有効利用に関する研究**

前年までにイタリアンライグラス、及びソルゴーをサイレージとして給与する場合の効率的利用法をはじめ、大麦ホールクロップサイレージ・生麦わらサイレージ・青刈稲サイレージなどの飼料価値を明らかにしてきたが、今年度は、「秋作麦とイタリアンライグラスの混播による飼料価値」を検討する。また、「粗飼

料構成の差が乳牛に及ぼす影響」として予備調査を終了したので、乳量、乳質及び牛体生理を損なわない飼料構成を解明するための実験を行う。

**(二) 育成方式の体系化と生産性実証試験**

乳用子牛の育成について解明された技術を組み合せながら、実際場面に適合した技術の体系化について実証し、健康で生産性の高い後継牛確保を図るため、当面は、集団育成を前提に、ほ育方式・放牧方式・運動、などを組み合せ、消化器の変化・発育・繁殖などへの影響を検討しているが、これらの実証牛については追跡調査により生産性も検討する。

**(三) その他**

前年に引続き「生乳品質の改善」、「乳牛の集団飼育に適する給飼施設の改善」についても検討するが、新たに予備試験として「ヘイストレージの調製」を行い、家畜糞の飼料化も試みることとしている。

また、優良乳用種雄牛選抜のための後代検定事業については、第四期生三〇頭について実施しているが、本県の検定娘牛は乳量、乳質など全国的にも優れており、技術的にも高い水準にあることが伺われる。なお、今年度からは検定終了娘牛のその後の状況についても追跡調査を実施して、その精度を確認することとしている。

**酪農部―草地飼料関係**

**(一) 転換畑高度畑作技術確立試験**

水田転作関連の国の総合助成課題であり「転換畑におけるホールクロップサイレージの調製貯蔵技術、及び流通化技術の確立」をテーマに、栄養価が高く、泌乳性の高いサイレージを転換畑から生産するために、秋作麦とトウモロコシについて、その栽培技術とサイレージ調製、及び流通のための技術について検討する。なお、この試験に関連して現地実証ほの調査研究も実施する。これは農家の転換畑を利用してトウモロコシの二期作栽培について実証展示する。

**(二) 西南暖地における草地の周年安定生産技術の確立**

草地の利用をより高度にするため、特に越夏を安定させる栽培技術について、ハイブリッドライグラス及び周年利用型イタリアンライグラスを用いて検討している。また、一方では、在来のノシバの生産性と放牧による利用性を検討し、山地畜産のための資料とする。

**(三) その他**

国の助成及び委託を受けて実施しているものに、育種系統の牧草について放牧適応性を検定して、品種登録の資料とする「牧草類育成系統放牧適応性検定試験」新品種の特性と適応性をみるための「飼料作物の品種適性調査事業」及び、農試との共同による「夏期排水不能田におけるホールクロップ用ハトムギの高位生産技術」のうち、サイレージ調製について検討する。

また、県単事業としても、水田転作に関連し栽培から流通にわたる技術の解明を急ぐため、「秋作麦とイタリアンライグラスの混播栽培法と利用技術の確立」、「水田転作に伴うサイレージの輸送に関する研究」などを実施している。

**養豚部―養豚関係**

**(一) 豚の人工授精普及促進技術の開発**

低温保存精液の応用により、精液の保存期間を延長し、人工授精の普及を促進するため、昭和四十九年以来実施してきた技術改善試験の成果をふまえ、更に実地に活用する場合に必要な、精液の輸送、保管の実用的な技術の開発を図る。

**(二) 分娩豚房施設改善による子豚の損耗防止**

ほ乳子豚の死亡原因のうちで、最も発生率の高い圧死事故を防止するため、分娩柵の上・中・下段幅を調節し、母豚の横臥動作を制限することによる圧死防止効果を調査し、分娩柵の改善を検討して育成率の向上を図る。

**(三) その他**

山地の有効利用と、自然環境の中での健全な養豚を推進するため、放飼養豚技術として、繁殖豚の野外種付、分娩について調査するほか、小規模養豚経営の育成指導に役立てるため、繁殖―肥育の一貫経営を新規に開始する場合を想定して繁殖豚六頭のモデル経営実証試験を継続して実施する。

**養豚部―環境保全関係**

**(一) 畜産汚水の土壌・植物濾床による浄化の実用化技術**

畜産汚水の処理は、年間を通じて畜産農家の大きな負担となっているのが現状であり、低コストで簡易な処理技術の開発が強く望まれている。このため土壌・植物など自然生態系を活用した装置での処理方法について、これまで二カ年間にわたり検討してきたが、ほぼ見通しが得られたので、今年度は、更に実際的な施設規模での処理技術について検討し、実用化技術の確立を図る。

**(二) 家畜ふん発酵熱利用**

最近家畜ふん尿処理は、省エネルギー的な方法によることを要請されているが更にふんの発酵処理の際に発生する、発酵熱を積極的に利用する方法について、その可能性を検討する。

**(三) その他**

前記試験のほか、関連する試験として活性汚泥法による汚水処理の際に、常に発生する余剰汚泥は、高価な処理加工施設に頼るほか、その処理、利用が難しいのが現状であるので、より簡易な脱水乾燥施設の考察と、脱水処理した汚泥の利用法について検討する「余剰汚泥の処理、利用」また、強制送風方式による家畜ふんの急速堆肥化の方法について検討する。



## 昭和55年度
# 試験研究の重点方向と主要課題

岡山県和牛試験場

### はじめに

農林水産省畜産局が、さきに概数集計しました五十四年一～一二月の暦年におけるわが国の食肉需給量は、三七〇万三千トン（枝肉ベース）に達し、前年対比八・二パーセント増で、五十三年伸び率九・二パーセント増よりやや小さいが、一ケタの伸びと前年に引き続き安定的な拡大ぶりでした。この三七〇万三千トンの需給量は、二九二万トンの国内生産量、七八万五千六百トンの輸入量および三千二百トンの輸出量から構成されていますが、豚肉一三％増、鶏肉八・五パーセント増・牛肉七・八パーセント増の順に需給規模を伸ばしたのが特徴です。

食肉の国内生産は、四十九年に二〇〇万トン台に乗せましたが、五十四年は三〇〇万トンに今一歩の二九二万トンを維持しました。このうち牛肉と馬肉が前年より減少し、豚肉と鶏肉でカバーした形で、牛肉は四〇万一千六百トンと前年の〇・四パーセント微減でしたが、これは五十四年のと畜水準が高く、子牛価格の上昇を背景に和牛の出荷が少なかったことが原因です。このように、五十四年の食肉需給量はきわめて安定した伸びを示し、このペースで進めば五十五・六年には四〇〇万トン達成は可能であるといわれています。

さらに、農水省の昭和六十五年農産物の需要と生産の長期見通しによりますと、食肉の需給量は五十三年の総需要量の四九％増に当たる五〇九万トン・牛肉は六二パーセント伸びの八九万トンと見込み、生産の方は、五十三年同様七〇パーセントの自給率で二〇〇万頭の出荷を予測しています。

そして、食肉の消費動向を示す総理府統計局の五十四年一～一二月の家計調査によると、一世帯当たり（全国・全調査世帯平均）の肉類支出金額は九万八二九円で、前年に比べ二・三パーセント増加しました。この一年間に肉類の消費者物価は、〇・九パーセント下落していますので、実質では三・二パーセントの伸びで、食料費に占める肉類シェアは一二・一パーセントと前年並みでした。品目別ではベーコン一二・六パーセントが最高の伸びで、鶏肉六・三パーセント・豚肉は三・三パーセントのそれぞれの伸びで、牛肉は昭和五十三年に一一パーセントの大幅な伸びを示して話題を呼びましたが、一・二パーセントの伸びに止まって低迷しました。

一方・農水省畜産局の昭和五十五年度予算総額は一、六八〇億円で、そのうち肉用牛関係の生産振興に重点強化しているのが特色で、そして岡山県畜産課予算四六億円のうち肉用牛対策費は五億八千六〇〇万円（前年対比一四三の伸び）で、重点施策とされています。

このように、養豚・養鶏・酪農等の多くの畜産物が生産調整を強いられている程の生産過剰の中で、和牛などの肉専用種牛の生産が停滞していて、唯一の不足畜産物とされている現況で、社会的・経済的並びに行政的な背景のもとに、和牛試験場では、次のような事項を本年度の重点方向としています。

(一)山地畜産の推進技術
(二)繁殖生産技術
(三)水田再編に伴う肥育技術
(四)肉質改善向上と斉一化技術
(五)急傾斜草地の造成更新技術

いずれも・岡山県和牛改良並びに生産振興のため重要なもので、反面長年月を要するものですが、本年度は一四課題の試験研究業務に場員一同取り組んでいますので、一層の御鞭撻と御協力を切にお願いする次第です。

### 主要な課題

**一・肥育素牛の長期放牧育成がその後の仕上げにおよぼす影響に関する試験**
（試験期間　五十三～五十六年）

山地を積極的に活用して肉牛を安定供給することは、現在岡山県畜産行政の最大課題の一つですので、山間地原野を有効利用するねらいで、第三回の試験を今年度新たに着手しています。方法としては、去勢肥育素牛八頭を約二一〇日間体重の〇・五パーセント程度濃厚飼料を補給しながら、主として場内野草地に放牧し、四二〇日間は仕上げ肥育し、仕上げ体重六五〇キロを目標としています。

**二・放牧肉用牛の季節繁殖技術の確立に関する試験**

（試験期間　五十四～五十八年）

肉用牛の繁殖経営においては、受胎率の向上と連産性の確保が必須条件です。しかし、現在全国的に肉用繁殖牛の受胎率は低下する傾向を示しています。このような状勢のもとで、規模拡大のためには労力面から放牧利用が必要となってきます。そして、放牧利用する場合、放牧中の発情発見、人工授精は各種の障害があり、この推進上大きなネックとされています。

そこで、冬期から春期（一～四月）の舎飼期に発情同期化する区三〇頭を大佐町混牧林に放牧するものと、春から初夏（四～六月）にかけて人工授精する区一〇頭を場内草地に放牧するものと比較しながら、効率的放牧利用と繁殖経営におよぼす影響を調査する目的で、前年度から着手したものです。

なお、前述の一の課題とこの課題は、来年度から本格的に取り組む、中国五県協定の「針葉樹林地内放牧による林畜複合生産技術の確立に関する総合的研究」の中で、さらに継続して検討される予定です。

**三・サイレージの通年給与が去勢牛の肥育におよぼす影響に関する試験**

（試験期間　五十五～五十六年）

水田利用再編成による飼料作物、栽培促進と肥育における飼料自給率の向上とさらに給与粗飼料の単純化をねらいとして、サイレージの通年給与が産肉性におよぼす影響を検討するため、本年度新たに着手したものです。

方法としては、粗飼料として通年大麦サイレージを給与する区六頭・一般粗飼料を給与する区六頭計一二頭を供試し、試験期間は六三〇日間とし、飼養方式は群飼いとします。

**四・不耕起造成草地の更新技術に関する研究**

（試験期間　五十三～五十五年）

この試験は、過去本誌でも度々紹介しましたので、要点のみ解説しますと、急傾斜地とか、露岩の多いところを草地化するためには不耕起造成法が採られています。しかし、この方法では、前植生の抑圧が完全でないため利用管理の状態によっては、前植生の状態に戻ったり、また年がたつにつれて牧草の密度の低下などにより期待した牧養力が得られない草地が各地にみられます。このような草地の更新技術は、未だ明らかにされていないため、山口畜試との共同研究によりその技術開発をねらいとして実施しているもので、本年度は最終年度となっています。

そして、来年度からは灌木とシバとを組合せて急傾斜草地の保全と生産利用技術の確立をねらいとして、現在新たに計画を作成しています。

**五・その他和牛改良事業**

当場の特色として、種雄牛一九頭（内八頭を供用種雄牛・一一頭待機種雄牛に本年度から新たに設定）を繋養して・和牛凍結精液の生産配布を全県下を対象に実施しています。

和牛の産肉能力向上特に肉質改善は、岡山県和牛に課せられた最も重要な課題の一つです。従って、本年度も和牛産肉能力検定事業として、直接法による検定を肉用牛集団育種推進事業に係わる認定牛九〇〇頭より生産された血統・体型・資質の優れた雄子牛二〇頭について・前年度に引き続いて実施しています。さらに、間接法による検定を種雄牛糸藤号・第八正花号・藤光号のそれぞれの産子について実施する予定です。

また、前年度種雄牛の後代検定事業を実施して、現在岡山県和牛の供用種雄牛の一つである渡辺号が育種登録牛になる予定ですが、本年度は今後一層和牛改良に期待される奥松号の後代検定を、阿新地区で新たに実施して育種登録牛にする予定です。

これらの検定事業を強力に推進することにより、きたる五十七年度に福島県開催予定の第四回全国和牛能力共進会に向けて、岡山和牛改良に資するとともに、県内和牛飼養農家の指標にと念願している次第です。


牛の健康，　緑の牧草は

タンカルで良い草を！

効めの早い　タンカル肥料

持続性のある　土改1号，2号

足立石灰工業株式会社

岡山県新見市足立　TEL（08679）5－7111




私の趣味

# 油絵の仲間たち

岡山県畜産会事務局長　竹原　宏

私は中川一政の絵が好きだ。先生の絵には、東洋的な雰囲気と、随筆のような深みと洒落がある。もう五・六年も前のことであったか、暑い夏だったと思うが、わざわざ先生の個展を訪ねて大阪まで出かけたことがある。岡山の駅前で開かれたときには、何回も出かけて堪能するまで見せていただいた。マジョリカ壷のバラや椿が定点をはずれて、ズツコケそうに描かれているのがいい。

油絵を習い始めて七・八年になる。最初は岡山市のA先生の東山のアトリエに通って、二年ほど手ほどきを受けた。その後津山市のI先生に三年ほど師事した。キャンバスに向って絵筆を振っている姿は、外見は大変楽しそうにみえる。然し、本人は大変な苦痛に耐えているのである。一筆一筆に神経がとがってくるのである。時々、写生に出かけることがある。路傍で一心不乱に描いていると、後からのぞいて「あのおちちゃんの絵は高価いのよ」、なんて子供に話しているのが耳に入ると、顔がホテって筆が進まなくなってしまう。また、「こんな寒い所で一文にもならんのに」とひやかされる。なんだ世の中は金だけではなかろう、と反発を感じながら絵を描くのである。下津井の港もいい。牛窓のオリーブ園もよく出かけた。鳥取県の網代港の干いかや、詰寄の港を描くために民宿に泊ったこともある。

秋、紅葉の季節には、よく大山に出かけた。南からの登山口に、御机と言う部落がある。そこに一軒だけ宿屋がある。小さな安宿である。家内と二人で、その屋根裏に泊ったことがある。例によって、宿帳に記入するときに驚いた。有名な絵の先生方のお名前が、並んでいるのである。その晩も隣の部屋に白髪のおばあさんが、一人で泊っておられた。私達がその日に書きあげた絵を並べて、絵談議に無中になっていると、おばあさんも自分の絵を持ってこられて、私達の仲間に加わって楽しい一夜を過したことがある。

津山では、I先生を中心にした洋画研究会があった。この会は、毎月一回画材屋の二階か、先生のアトリエで絵の講評会を開いた。この時は必ず一枚以上の絵を持参することになっていて、皆の前で講評を受けた。会員の中には、県展の常連や春陽展の受賞者も混っていた。婦人も五・六人おられた。あらゆる職業の人がいた。話は全く屈託のないものであった。先生が酒好きであったせいか、後半は酒宴になって、深更に帰ることも度々であった。豊富な話題の中にたった一つの掟があった。それは他人の絵の悪評をしないことであった。

この会は、津山市のデパートを借りて、毎年秋にグループ展を開いた。その当日はデパートが終了してから会場を作るので、夕方から絵の搬入になる。それぞれ三〇号から五〇号の大作を持より、皆で飾りつけをするのである。こんどは何人観客がきてくれるだろうか、何枚絵を買ってくれるだろうか、などと賑やかにはしゃいで作業が終るのは一〇時をすぎてしまう。夜なきそばを食べて解散するのが常であった。その味は今でも忘れられない美味しいものであった。

私の両親も絵が好きで、日本画のグループに入っていた。この会は、月一回会員の宅を輪番に会場にしていた。今では、先生が年をとられて自然に解散になってしまったが、会員の中には、元校長、元県会議員、元関東軍参謀もおられ、談論風発といった会場であった。現在も母は健在であって八〇才を越えるが、時折り絵筆を持っているようである。相変らず下手である。私の実弟も家内も油絵を描く。この二人は県展入選の経歴がある。私だけが入選できないでいる。県展に入選することが、私のライフワークである。今年も応募規程が発表されたが、仕事に追れて描けそうもない。長生きをするためにも、早く入選しないのがよいのかも知れない。

# 遂に完成！「岡山県畜産史」

## 岡山県畜産史編纂委員会

去る六月十日、遂に念願の「岡山県畜産史」が出版された。本史は昭和五十二年に岡山県畜産史編纂委員会（県農林部の外、畜産関係二四団体で結成）を組織し、昭和五十三年五月に本県畜産の各分野の専門家二六名に執筆を依頼し、翌五十四年末に脱稿するという、まことに驚果的なスピードであった。このことは、昭和四十八年頃より惣津律士、蔵知毅両先生が準備を進めておられたお陰でもあるが、本事業に関係された方々の積極的なご協力による賜のと深く感謝している次第である。特に執筆を担当して下さった先生方は大変お忙しいお仕事の間に夜々筆をとられたもので、大変ご迷惑をかけたが、何一つ不服を言われた事はなかった。畜産一家の温さを身に泌みて感じた次第である。

本県の畜産は、昭和前期まで耕牛、耕馬であった。昭和戦後になって、乳牛、豚、鶏がこれに加わり、近代的な畜産として成長をとげた。一方では農耕の機械化が進み、次第に役牛馬が衰退して陰をひそめた。また、近年になって乳卵豚肉の過剰傾向が現われてきた。このように牛肉以外は計画生産の時代を迎えた。この様変りを本史は次のようにまとめた。


第一編　総　論

第一章　旧養時代までの畜産の概要

第二章　明治、大正年代における畜産の発達

第三章　昭和前期における畜産の推移

第四章　昭和後期における畜産の発達

第二編　各　論

第一章　酪農の発達

第二章　和牛（肉用牛）の変遷

第三章　養豚の進展

第四章　養鶏の発達

第五章　その他の家畜

第六章　牧野飼料作物ならびに流通飼料

第七章　家畜衛生


編集には、上原茂喜・竹原宏・三村剛柏原要・花尾省治・井上皎・栗山光春・林止夫・渡辺明喜の諸先生が当られ、監修は広島大学の史学の大家である石田寛教授に依頼した。執筆の諸先生は、総論を林止夫・渡辺明喜・第二編各論の酪農の発展を上原茂喜・竹原宏。和牛の変遷を安東秀郎・柏原要・梶並嘉芳、嘉寿頼栄・片寄功・林止夫。養豚の進展を片山秋坪・古好秀男・竹原宏。養鶏の発達を岩本敏雄・植月昌彦・上野満弘、小野登志男・川崎晃・諏訪一男。その他の家畜家禽を上原茂喜・林止夫。牧野・飼料作物ならびに流通飼料を栗山光春、花田時太。家畜衛生を石井達男・上野凱生・軽部祐一・武内太計夫・唐木茂樹・林克彦守屋進（各章ごとのアイウエオ順・敬称を略した。）が担当した。

表紙は特織麻布上製本で、箔押し函入で、A五判の一、三〇〇頁で、表紙の題字は長野知事から贈られたものである。

# 岡山県農協中央会

## 営農共同対策部より

**○家畜ふん尿処理対策協議会総会終了**

日時は五月六日午前十時三十分より、中央会会議室で協議会構成機関、団体が全員出席し総会が開催された。議事は

第一号議案　昭和五十四年度事業報告書承認について

第二号議案　昭和五十五年度事業計画(案)について

の二件で、それぞれ審議の結果承認された。五十五年度事業計画は、

一、家畜ふん尿処理技術の調査研究及び普及推進

二、畜産農家と耕種農家との家畜ふん尿利用組織の確立および畜産農家の堆肥生産状況を把握し、「岡山県土づくり推進協議会」に協力し、利用組織の育成に努めること、となっており、今後具体策を幹事会において協議し、実施にうつされることとなる。

**○飼料作物生産振興対策会議について**

県担当課（畜産課、普及園芸課）中央会、経済連、酪連、県畜産会、草地協会が参加し、五月八日午前十時より中央会会議室において昭和五十五年度の飼料作物生産振興対策会議が開催された。新年度初の会議とあって五十五年度における生産振興対策についての基方的方針と実施事項が討議された。

一つは飼料作物栽培の手引の作成で、これは、水田再編に伴う転作作物として拡大の方向であり、畜産農家においては生産費の低減の必要と、牛飼養上から重要である飼料作物の栽培と、作業体系、施肥、除草、病害虫防除の関係事項を一冊にまとめ指導者用として活用を願う目的のもので、五月中に作成と播種の関係から早期に説明会を開き、普及の予定である。

二つ目は生産振興に伴う流通の問題で、現状は県下全般においてこの体勢は未整備であり、その整備と確立が最大の課題であることから、先づ五十五年度では優良先進事例の現地調査を行って、事例集を作成し、生産と流通の体勢整備の参考に資することとなった。

**○飼料作物栽培の手引説明会地区別に開催される**

飼料作物生産振興対策会議で協議決定された「飼料作物栽培の手引」が五月上旬作成された。県、関係機関団体の指導者用として配布されるが、別途その内容の普及を計ることから、五十五年度産大豆生産振興対策会議の席上、協議事項に飼料作物についてを設け、農協、振興局、普及所、市町村の指導者層へ配布のうえ説明が行われた。

岡山地区　五月二八日(水)一〇時
　岡山県農業会館八F2号会議室
倉敷地区　五月二六日(月)一〇時
　農協連倉敷支所会議室
高梁地区　五月二〇日(火)一〇時
　高梁農協会館三F会議室
津山地区
　津山農協会館三FA会議室



# 肉畜市況

## 経済連畜産課

**肉牛**

牛肉消費において、昨年後半からそれまでの好調に伸びてきた家庭消費が停滞した。これに連動し牛肉価格においても昨年より軟調となった。特に輸入肉の影響を受けやすい乳雄肥育牛の並物において価格の落ち込みが大きく、枝肉kg当り一二五〇円前後となった。その中にあって和牛去勢は頭数の少ない事も影響し堅調に推移している。

今後の市況見通しは市況回復の材料となるものが乏しく、輸入肉等の潜在的な影響で大きな変化はないと思われるが、夏場の消費増を期待している面もある。

**肉豚**

昨年秋以降急落した肉豚市況が消費の回復（末端家庭消費前年比一〇八％）となったが、肉豚の出荷が一〇％以上も前年を上廻ったため相場的には低迷推移する結果となった。

調整保管も六月一杯延長し、現在調整保管されている豚肉の金利倉敷助成金も更に六か月間延長助成することとなった。これが今の市況を支えていると言うのが現状であるが、一方では種豚の自主淘汰も計画以上に進んでいる状況から、今までの出荷の伸びも月を追って鈍化傾向をたどると考えられ、また夏場消費の拡大も見込まれて市況の回復が期待されている。

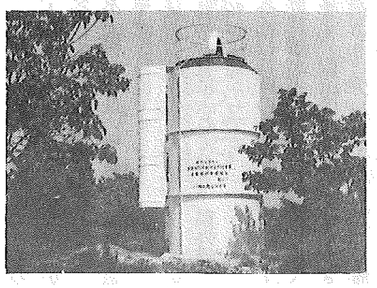
**子牛**

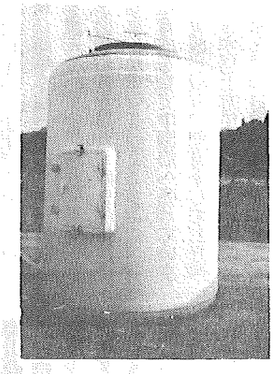
五十五年度平均三三四、九四二円で前年比一二一％と価格の上昇となったが、これは全国的な和牛子牛の生産横這いと、昨年の前半牛肉の消費が堅調に伸びた事により、子牛価格に連動し上昇となった。五十五年度に入り五月市況は三六〇、九九〇円と好況に推移した。これからも夏期より制度事業による優良雌子牛の県外からの引き合いも期待されるので好況に推移すると予想される。

**子豚**

昨年後半来の肉豚不況を双に受けて、一時一万二千円と急落したが三月より持ち直し五月期の市況は二二、六九六円と回復し落着いた市況となった。今後は豚肉消費動向の兼ね合いで市況は肉豚価格に連動した推移となることが予測される。


（F．R．P.製気密サイロ）





実用新案　意匠　出願済み

○小型サイロ　5m³，8m³，10m³

○タワーサイロ　12m³，20m³，32m³，42m³，50m³，68m³

○タワーサイロ　（トップアンローダ）　80m³，100m³

○畜産資材　F.R.P製飼料タンク，一輪車，飼槽，ライニング工事

タカシ産業株式会社

工　場　岡山県真庭郡落合町上河内６２７　TEL 08675 ⑤2211(代)

札幌(営)　札幌市白石区南郷通り18丁目北25　TEL 011 862 6627

住友化学中央研究（技術協力）

# 意見をきく

## 産和牛について）

### 岡山県和牛懇話会

出席者

- 全農
- 福島県
- 栃木県
- 群馬県
- 茨城県
- 長野県
- 三重県
- 広島県
- 香川県
- 岡山県

**竹原**―ご承知の通り牛肉の需給関係は世界的に不足の状況で、国内自給の増進をはかるために肉専用種の増頭が叫ばれております。岡山県でも和牛が減少を続けており、何とかしてこれを増える方向に持っていくため、和牛懇話会を設けて、研究を重ねております。

本日はこの懇話会の事業の一つとして岡山の和牛を買って下さる方々から、岡山牛に対するご意見をいただき、今後の和牛振興の参考とさせてもらいたいと思っております。

### 岡山県産和牛子牛への評価

**司会**―岡山の子牛を買って帰られて、どう思われているか、ご意見をおきかせ下さい。

**全農**―一般的な評価として増体は良いがサシの方が今少しと言うことのようです。肉質は飼い方にもよるとは思いますが。それと岡山から他県へ行った種雄牛で成績の良いのが多いようです。

**茨城**―昭和三十五年頃から買いに来ていますが、第二明石はサシが良かったと思います。第二中山が出だして評判が落ち、これがいなくなって又良くなってきたと思います。県内で肥育を始めたばかりの所へ岡山の牛を入れ、今年の五月から出荷していますが増体は良いし、肉質の方も回復しています。茨城県に入れた岡山の牛の上物率は七五%位になっています。

**栃木**―ある農協から聞いた話ですが、増体は申し分ないがサシの極端に入るものと全然入らないものがあり、バラツキが多く安心して買えないと言うことです。県全本の上物率は良い農協で八五%、悪い農協で六〇%位です。

以前は岡山から相当入れていましたが、今は広島から主に入れており、県外導入の六五%が広島からです。

**三重**―今迄は兵庫の牛が多かったのですが、最近兵庫の牛が減り、岡山からも入れています。岡山の牛は大きくなりすぎる傾向があり、少し大きい牛を買って帰ると一〇カ月で七〇〇kgになる牛もおります。このような牛は肩端が崩れて体型が悪くなり、生体販売するのに困ります。それと一般的に毛色の赤い牛にサシが入らず、毛の黒い牛の方がサシが良いように思います。又、同系統でもサシの入るのと入らない牛がいます。

**香川**―私は雌牛を買っていますが但馬に似た牛を選んでいます。最近尻が大きく、足が短かい牛が多くなり、好きな牛が少なくなりました。

今迄は育成をして中国筋へ売っていましたが、育成が減り、肥育をして上方へ売っています。上方でも尻の大きいのは喜ばれません。少し尻の細い牛に改良してほしいと思います。

**広島**―関東では肉質の良いものが多く、上物率も高く、枝肉単価も三、〇〇〇円でも四、〇〇〇円でも売れます。しかし尾道あたりでは肉質の良いものは需要が少ないのか、良いものを作っても高く売れません。肥育経営はもうけなければいけません。私も肉質の良いものを作ることも考えましたが、今は増体を主としています。

岡山の牛は広島の牛より増体が良いのですが、広島の牛も最近人気が出て高くなりました。改良の成果が出たのか、持って帰ってかなりの成績が出たのか、原因は判りません。岡山の牛の中で、増体は良いが肩付が悪いので、すごく嫌われるのがいます。

肉の一歩手前で売る時、買う人が体型で選ぶので、損をします。尻の張った牛も生体で売る時たたかれます。

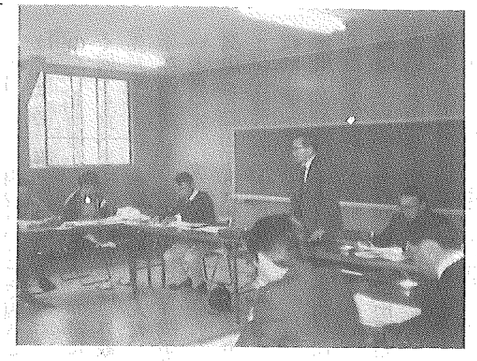
**長野**―繁殖用の雌牛を今迄主に兵庫から入れていましたが、兵庫の血が濃くなり体が少さくなってしまいました。そこで岡山の牛は発育、体型が良いので買いに来ています。

**香川**―香川でも子牛を生産していますが、毛ハダは香川の方が良いし、価格も岡山より高いのですが、増体はたしかに岡山の方が良いと思います。香川は岡山の雌の七割位を買っているのではないですか。しかし最近は但馬の血の入った宮崎の牛を買いに行くようになりました。

第三回全共で優勝した肥育牛も宮崎の牛でした。

香川は雄は但馬系の牛を買いますので岡山では買っていません。





討論会

# 県外購買者の

## （岡山県

**群馬**―群馬県は枝肉販売と生体販売の両方をしてますが、生体販売する所では尻の細い、角の上に向いたのが喜ばれます。生体販売の場合確かに尻の細い方が高く売れていますし、群馬県内で生産する子牛も肥育用には尻の細い方が高いようです。

ある農協の話では岡山の牛の好い所は肥育して売ると特別に高い牛は出ないが、枝肉単価が一、八〇〇円から二、二〇〇円の範囲で安定して売れるということです。しかし二年位肥育しているため、二五〇kg以上の大きい牛を買って帰ると大きくなりすぎるので、二三〇kg位のものを買うようにしています。もう一つは肉付が過肥になっていることです。買って帰って麩をやり、肉を少し落してから肥育します。これは無駄なことなので子牛にもっと粗飼料を与えて肉の軽い牛にして出してほしいと思います。これが一番大きい希望です。

**鹿沼市**―鹿沼市農協に和牛肥育組合を作って昭和三十二年からやっています。始めは地元の牛を使っていましたが、最近の肥育ブームで素牛が不足し、最初淡路から入れたのですが、飼い方が合わないのか、増体が悪く、サシも安外入っていませんでした。岡山は最初高梁、新見から少し入れていましたが、現在では相当入れています。販売は全部芝浦で枝肉販売しています。最初第二中山などを入れていましたが、芝浦の結果は第十一松田がずい分良かったので、第十一松田、守一にしぼって購買しました。その後第十一松田が出なくなり、栄十三、第十一糸谷を買いましたが、これも減って来たので、現在はどれが良いか研究中です。

それと岡山の種雄牛は多すぎるようです。成績を見てしぼってもらい良い系統の子牛を多く生産してほしいと思います。

**岡山**―種雄牛が多いということについて、県・経済連等の関係者が集まって和牛改良協議会を開き、今年度から直検とか、間接検定の結果を見て、各系統の中から八頭の種雄牛を選んで供用することにし、肉質のバラツキを少なくするようにしていますので、この結果が段々に出てくると思います。

**群馬**―導入した牛は帰ってから抽選で分けていますが、人によって上物率がすごく良い人と反対に悪い人が出ています。系統も重要ですが、肉質は飼い方による差もあると思います。岡山の牛で今迄一番高かったのは枝肉kg当り三、四〇〇円でした。

### 子牛の規格について

**岡山**― 岡山の牛は増体が良いので子牛の体重はもう少し軽くても良いという意見もありましたが、この点どうですか。

**茨城**― 私は二五〇kgから上が良いと思います。

**岡山**― 岡山では雌二三五kg、去二五五kgを指導目標にしています。

**茨城**― それで良いと思います。去で二五〇kgを目標にすると、二三〇kgの牛も二七〇kgの牛も出ると思います。

**広島**― 中国筋で一番月令の若い牛が出るのは鳥取で、単価的には二三〇kg位の体重の軽い牛が高いようです。親牛の後の種付を考えると、長く飼って大きくするのが有利とは言えないと思います。生産者はせり市場に出すのを目標に濃厚飼料をやって肉をつけ、外観を良くして高く売るようにしています。一年か一年半に一頭しか売れないので高く売りたいと言う気持は判るのですが、買う方は迷惑しています。購買する者はそういう気持ちでいるのですが、二三〇kgより二五〇kgの牛が市場では高くなっているので、生産者は肉をつけるようになります。

**岡山**― 四十六～四十七年頃一度過肥というおしかりを受けて骨格を大きくするように指導しています。

**茨城**― 子牛の馴致を十分してもらいたいと思います。人に全然馴れていない牛が多く、暴れて困ります。（同意見の人多数）

**岡山**― 最近は若い人が働きに出て、年寄りが飼うので生産検査迄一度も外へ出た事もない牛が増えたと思います。

毎日外へ出したりして手をかけていると人に馴れて来るのですが。

**香川**― 昔は岡山の牛は、足もとが良いのが特徴でしたが、今はツメの伸びた子牛が多く見られます。それから先程、話

しが出ました、肉の付いた牛で困ることは、導入後、餌を食わないことです。その点、北海道から入れる牛は、非常によく何でも食べます。岡山の牛は、外観はキレイですが、全程、経験を積んだ、上手な人でないと、飼えないという例が多いようです。

**岡山** ― 岡山でも放牧する地帯もありますが、放牧した子牛を買われて、どう思われますか。

**香川** ― 上斉原の牛は良いですね。何でも食べますから。（笑い）

**岡山** ― しかし上斉原の牛は平均単価が安いので困ります。

**香川** ― 肉が付いてないからです。

**岡山** ― 個人的に購買客に聞くと、後で飼い易いと言ってくれますが、せり値が安い。我々は放牧した牛は好まれるので放牧しなさいと言うのですが、せり値が安いのでそうばかり言えないので困ります。

**香川** ― 商人としては良い牛も欲しいが安い牛も欲しいと言うのが本声で、もうけるためには高く売れる牛を買うことですが買値が高くなる。安い牛を入れるのも、もうかる方法です。高い良い牛ばかりに揃えられては、掘り出し物を見付ける楽しみが無くなります。経済連さんなどの良いお客さん相手には大きい良い牛を揃えるのが良いのでしょうが、大きい牛もいるし、小さい牛もいるという市場であって欲しいと思います。（笑い）

**岡山** ― 明日は放牧地帯の子牛が市場に出て来ますが、肉付の軽いのは良いとして、発育の極端に悪い牛がどうしても出るので、発育の良い種雄牛を交配したり、泌乳性の良い親牛にするように指導をして、発育の悪い子牛を無くそうとしています。

**香川** ― 今はどことも初産が早くなっているので、放牧地帯の初産の子牛が特に小さいようです。二、三産すると大きくなってくるようです。

**岡山** ― 小さくさえなければ放牧した子牛は一番良いと思いますが。

**香川** ― 肉は軽くても、あとでよく食べ発育も良いようです。

**岡山** ― 三月のせり市で上斉原の牛の平均が二七万円でした。安いので牛が減って来ています。ある程度飼い直しをするようにやかましく言っているのですが。

**香川** ― 五カ月位放牧して三カ月位飼い直しをしたら良いのではないですか。

**岡山** ― 放牧牛は痩せていても代償発育で大きくなると言うことで見直してもらい、もう少し高く買ってもらうと放牧牛が増えると思います。舎飼い牛と一諸にせりにかけるので見がの良いものが高くなりどうしても肉をつけるようになります。

**岡山** ― 月令は八カ月前後でよいでしょうか。

**茨城** ― 今の八カ月前後で良いと思います。

**岡山** ― 体高についてはどうですか。

**香川** ― 最近はどこも大きくなっています。島根県も大きくなっていますが、肉はついていません。ここのは肉が付きすぎています。

**岡山** ― 大きくするために飼うとどうしても肉が付くようです。肉を付けずに大きくするには粗飼料をやれば良いのですが、草を作りなさいと言ってもなかなか作ってくれず困っていますが、ご要望に併せた指導をします。

## 種雄牛について

**岡山** ― 和牛試験場に現在繋養中の種雄牛は一八頭です。別に廃用したが、精液を確保しているのが二頭います。

一八頭の中には、他県へ行って好成績をあげている夏山、第七糸桜、仙福の精液を、持って帰って交配して出来た種雄牛が三頭います。

**岡山** ― 岡山県では今年から清国系の第八正花、下前系の守一・渡辺・福富、山花系の藤岩、安達系の高庭、藤良系の糸藤、奥谷系の奥繁・奥松の九頭にしぼって精液を配布することにしています。

これらは間接検定のすんだ牛が七頭であと二頭も成績の判った牛です。

**広島** ― 肥育牛は良く太ってある程度サシが入れば良いと思います。肥育牛は枝肉で販売するのと、生体で販売するのとありますが、生体で販売する時には肩付の悪い牛は困るので、そのような種雄牛は使わないようにしてほしいものです。使うのなら欠点の出ない系統の雌を選んで交配してほしい。

それと全国的に兵庫の血液の入ったのを好む傾向がありますので、兵庫の血の入った牛を生産した方が良いのではないでしょうか。

**岡山** ― 津山地区では今年から育種事業を取組むことにし、基幹種雄牛を第七糸桜に決め、上斉原、奥津の藤良系統の牛に種付けすることにしました。それに藤良系で第七糸桜の子の糸藤を、津山地区へ精液の本数で全体の七五%もって来るようにしています。

肉質の改良と共に体の大きい牛を作ることを目指していますので、今後は糸藤の子が多く出てくると思います。

**広島** ― 第七糸桜が全国的に名を売っていますので、糸桜の系統というと、我々も買って帰って説明するのに便利です。

**香川** ― 島根へ行くと糸桜の子というと、どんと相場が上ってくる。私も今回注文を受けています。三〇〇kgで四五万円迄で買ってこいという注文ですが、糸桜というと購買者が集中して他の牛との差がはっきり出ます。生体単価が一、五五〇円位になり、高くて話になりません。

**群馬** ― 群馬あたりで肥育している人はレベルが色々あって、普通枝肉単価最低二〇〇〇円位を目標にしています。もっと進んだ所では、二、二〇〇円位のを作っていますが、鹿沼市農協さんのような



すばらしい牛を作っているのを見て、どうして群馬では良い牛が出ないのだろうかと考えてしまいますが、飼い方が同じとなるとやはり系統かなあということになり、糸桜が良いとなると少々高くても買うようになります。

二、五〇〇円や二、八〇〇円をねらうとすると優れた系統のものを買わないとできないようです。県内の進んだ農家では、誰かが成績をあげた系統しか買いません。優れ種雄牛の血の入った牛を追っかけるわけです。今、岩手県のある系統を皆んなで買いに行っています。糸桜も同じことで、希望が多いため四〇万円以上になります。岡山にはそのような抜群の牛がいませんので、ぜひこしらえてほしいですね。

**岡山** ― 先程言った育種のことですが、ぜひ成功させたいと思って頑張っています。ところで、ここに問題が生じるのですが、子牛の半分は雌で、種牛として今より尻を細くしたら種牛の購買に来る人がどう思うかということです。今の体型を崩したら種牛の供給地として生きていけません。

その為に但馬から種雄を直移入せず、但馬の血液が½以下のものしか使っていないのです。

## 市場に対する希望

**岡山** ― 市場に対する皆様方のご意見を聞かせて下さい。

**栃木** ― 一日の出場頭数は三〇〇頭以上にしてほしいと思います。三〇〇頭位では半日で終ってしまい、あと宿に帰っても何もすることがなく困ります。（同意見多数）

**茨城** ― 毎月一定の日に開催してほしいと思います。

**香川** ― 他県と重複しないようにして下さい。昨日は島根とダブっていました。

**福島** ― 高梁・久世・新見など合せて、一日三〇〇頭で二日間位でやってもらうと便利なんですが。

**茨城** ― 市場の統合は考えものだと思います。市場の無くなった地区は牛の数がガタッと減ってしまう例が多いようです。市場は牛を飼う人の心の寄り所なので心理的な影響が多分にあります。

**広島** ― たしかにそうですね。鳥取・広島の例でも市場の無くなった所の牛の減り方は激しいようです。市場統合は時代に即応した方法と思いますが、牛の数を減らさないためには考えものだと思います。

一五〇頭位で市場を維持するのも考えものだし、その辺は十分研究することが必要です。しかし難しい問題です。

**滋賀** ― 統合のメリットもあるので、十分研究してほしいですね。

**茨城** ― 将来生産頭数を維持し、良い牛を生産してもらうよう希望します。

**司会** ― 大体こちらでお聞きしたいと思ったことは出つくしたと思います。特に岡山の牛の今後の改良についてのご意見として、増体成績は良いが、肉質の点について、サシにバラツキが多いとか、尻の形が大きすぎるとか、色々とご意見が多かったようです。この点につきましては、検定成績などの結果から基幹種雄牛を八頭にしぼって供用して、肉質の向上とバラツキを少なくする努力をしていますので、今後に期待してもらいたいと思います。また、岡山の看板となるような名牛を作り出す必要もあると思いますが、この点について最後に岡山県としての今後の改良方向についてお話し下さい。

**岡山** ― 他の県でもやっていることですが、集団育種推進事業を岡山県でも行なっており、系統的に五代祖迄調べて、登録協会とも協議して、岡山県のけい養種雄牛を選び、指定交配制度を採り入れています。

又、地域によってはその地域の系統的な観点から、津山では藤良系の糸藤、あるいは第八正花を、勇断をもって交配を進めています。

**竹原** ― 長時間にわたり貴重なご意見をお聞かせ下さいまして大変有難うございました。お話しをもとに我々も検討会を開いて、今後の方向づけをはかりたいと思います。


“あなたの畜産経営に奉仕します”

新発売飼料フレークフイード（乳牛，肉牛用）

配合飼料，コーンジャム（とうもろこし胚芽油粕），脱脂大豆，菜種粕

カトウ 加藤製油株式会社

大阪・岡山・名古屋・高松・下関

| 事業所 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 本社工場 | 大阪市此花区梅町2丁目1番16号 | 〒554 | 電話 | 大阪 (06)462－0101 |
| 岡山工場 | 玉野市築港5963 | 〒706 | 電話 | 玉野(0863)31－2222 |
| 名古屋工場 | 名古屋市港区港陽1丁目1番82号 | 〒455 | 電話 | 名古屋(052)651－7411 |
| 高松工場 | 高松市郷東町字乾新開792－10 | 〒760 | 電話 | 高松(0878)82－1888 |
| 下関営業所 | 下関市中之町10－3 | 〒751 | 電話 | 下関(0832)22－8141 |

# 昭和55年度事業計画

岡山県経済連畜産部

## はじめに

八〇年代農業を思考するなかで、米作の減反にかわる作目として畜産の拡大が大きく期待されております。しかし畜産事業の現況は、肉牛を除いて生産の増加と消費の停滞、更に輸入畜産物の影響をうけて、需給の実態は大きくバランスを欠いております。また一方では、石油問題・円安等から飼料価格の値上がりも予測され、また畜産公害の規制が強化されてくるなど極めて厳しいものがあります。

以上のような情勢の観点にたって畜産経営の安定をはかり、その需要に見合う生産の拡大を進める必要がありますが、肉牛においては、市況の好況から素牛不足の状態が更に進むと予測され、和牛・子牛の生産拡大、肥育素牛の確保対策を講じる必要があります。

肉豚については、需給関係の極めて厳しい情勢に対処し、不況脱出のための消費拡大をはかりながら一方では、消費者の嗜好に合う肉質の改善、規格の統一を進めて、岡山肉豚の銘柄を確立することが現下の急務であります。

また、肉畜の流通面では、広域食肉流通センターの設置を促進して流通機能を充実し、更に直販事業所の販売とミートセンターの処理加工機能を強化し、これを軸として地域の実態に即した畜種で団地の造成と整備を進め、生産強化をはかり、飼育管理技術の向上と経営の合理化によって、主要産地として発展し得る体質へ改善する必要があります。

鶏卵・ブロイラーについては、品質改善と流通体制の整備を進め、長期的観点に立っての販売力の充実強化が必要であります。

また、飼料、畜産資材についても系統の有利性が立証される中で、生産販売対策への対応を考えながら、販購一体化を進め、系統占有率の向上運動を打ち出し、安定した供給に努める必要があります。

## 畜産部門方針と重点施策

一畜産団地の計画的育成と既成団地の質的向上

(一)広域食肉流通センターを中心とした地域の実態に即した畜産団地への誘導
(二)団地に対応する畜産広報活動の展開と研修講演会の開催
(三)生産者組織の育成と活動強化

二畜産生産対策の強化と増頭運動を推進

(一)制度事業（国および県）の実施促進
(二)優良種畜の導入確保
(三)和牛育種事業の推進による改良の促進
(四)優良種豚造成と供給体制確立による肉豚規格統一運動の展開
(五)素牛確保供給対策の強化
(六)全国養鶏センター育雛農場の活用による優秀素雛供給促進と指導体制の強化
(七)肉畜預託事業及び種畜貸付事業の促進

三畜産物集出荷の計画化と販売体制強化による取扱占有率の拡大

(一)広域食肉流通センターへの集出荷体制の確立をし、肉畜の有利販売による系統取扱占有率の拡大
(二)ブロイラーの生産・処理・加工の協調体制の強化による有利販売の実現
(三)鶏卵の地場販売機能の整備促進による取扱占有率の拡大
(四)子牛・子豚の市場整備と販路拡張

四食肉の供給体制の整備と販売促進

(一)直販事業所機能による新販路の開拓と販売促進
(二)食肉農村還元の拡大
(三)食肉販売Aコープ店との協調強化
(四)ミートセンター処理機能強化
(五)食肉加工品の開発・研究と実施

五畜産経営安定対策の強化

(一)子牛・肉豚経営安定事業の推進
(二)飼料・卵・ブロイラー安定基金の加入促進
(三)長期平均払制度の普及促進
(四)養鶏経営診断の強化と肉牛・養豚の経営診断の検討・実施
(五)飼育管理技術指導体制の充実強化

六畜産環境保全と家畜衛生指導体制の強化

(一)ふん尿処理合理化の促進
(二)自衛防疫体制の確立と衛生管理指導強化

七飼料・資材の安定供給と取扱占有率の拡大

(一)販・購買一体の事業推進と超大口畜産農家及び主業畜産農家奨励の実施
(二)配合飼料購買代金事故補償制度への加入促進
(三)飼料供給体制の強化
(四)系統農協飼料取扱強化運動展開による占有率の拡大



# 生乳の計画生産

岡山県酪連

最近の酪農は、生活文化の向上による牛乳・乳製品の消費の増大、生産資材の安定推移、それに加えて生産者のたゆまざる努力によって、大きく発展し、戦後三〇年にして基礎、基盤ができ上ってきました。しかし、消費の伸びに対して生産のそれがこ二・三年上回ったため、生乳の需給が緩和され、これを打開するために、昨年度より我国酪農史上かつてない生乳の計画生産が実施されました。

海外より生乳換算で二五〇万トンもの乳製品が輸入されている現実ではありますが、①今後酪農の拡大均衡路線を堅持する、②生産者が自主的に行う、③酪農基盤をくずさないことを前提に、酪農家の方々が真剣に取りくみ、涙ぐましい努力を続けました。

実施に当り、岡山県酪連では、生乳需給調整対策委員会を設け、検討に検討を重ねました。

五十四年度の計画生産目標は、中央より増産目標量前年度比一・八%の二、八八六トン、それに自県内消費拡大量〇・八%の一、二七五トンの四、一六一トン増、総量一六万四、五二九トンの目標を定め、これを各会員に割り当て協力を求めました。

これの達成手段としては、①粗飼料給与の増大と濃厚飼料の削減、②低能力牛の肉用化促進、③子牛哺育への全乳枠用 ④県外導入牛の抑制 ⑤乾乳を早めよ、などの方法を推進いたしました。

特に八月以降は、計画生産の意識が浸透し、酪農家全員の努力と関係各位の協力により、五十四年度の総生産量は一六万三、九五二トンにおさまり、前年度比は計画目標の一〇二・六%を下回る一〇二・二四%となりました。

◇　◇　◇

さて、昭和五十五年度の生乳計画生産目標ですが、生乳需給調製対策委員会、会員組合長との打合会、理事会において十分検討し、計画目標の設定に当っては通常の需要見込みから算出される基本計画生産目標に加え、拡大均衡を維持するため消費拡大特別割当を加算して決定しました。

基本計画生産目標一、四三七トン（五十四年度中央指令数量に対して〇・八八%増）、消費拡大特別割当一、六三二トン（同一%増）、合計三、〇六九トン（同一・八八%増）増の一六万六、三二三トンといたしました。

また、これの会員組合への割当てについては、五十五年度実績、五十四年度計画生産目標、後継者に対する特別枠等を勘案して決定いたしております。

これの達成方法については、昨年と大体同様に

① 全乳利用による子牛の哺育
② 経営改善のため低能力牛の肉用化の推進
③ 県外導入牛の抑制
④ その他

といたしております。

また、岡山県牛乳普及協会を中心に、関係者一丸となって、牛乳の政策需要、福祉牛乳の拡大、牛乳ガールズの募集、岡山県牛乳まつりの開催、牛乳料理講習会の開催、牛乳作文コンクールの募集等多彩な催しを計画し、牛乳の消費拡大を図り、生乳計画生産目標量の増加に努力する考えです。

なお、会員別計画生産超過に対するペナルティー措置については、本年度も中央決定に準じて行う予定であります。

**昭和55年度岡山県指定生乳生産者団体生乳計画生産目標**

| 55年度目標 | 54年度計画 | 増産率 | 増産量 |
|---|---|---|---|
| 166,323t | 163,254 t | 基本計画生産目標 0.88% | 1,437 t |
| | | 消費拡大特別割当 1.00 | 1,632 |
| | | 計 1.88 | 3,069 |

注）① 54年度計画数量は自県内消費拡大数量として増量を図った1,275を控除した数量である。
② 55年度目標数量の内消費拡大特別割当分については生乳需給状況の好転等により，中央の指示にもとづき別途加算する。

振興局便り

# 管内の畜産情勢について

倉敷地方振興局　松井　修

当振興局の所管区域は、県南部に位置し、高梁川下流地域、児島半島にわたる地域からなり、県南広域市町村圏の構成に属しています。この圏域の大半の地域は、いわゆる新産業都市の指定を受けており、その中核となる水島臨海工業地帯をもつ倉敷市と、この関連企業体からなる内陸工業団地を有する総社市の両市と、これらに隣接する都窪郡、吉備郡、浅口郡にわたる二市三町二村を管内として、その面積は五七二㎢、人口は、四九七千人であります。

管内の産業としては、倉敷市水島・玉島地区の鉄鋼および重化学工業を中心に総社市の前記関連産業、児島地区の繊維工業とともに、近郊の農業地域では米、野菜の生産を始め果樹、畜産等多岐にわたる生産が行なわれています。しかしながら工業化、都市化の進展が急速に見られ、それが近郊町村にも及び、混在社会の形成と農業就業者の老令化、兼業化等のなかにあって、都市と農村が共存する農業経営基盤の確立、ならびに農村環境の整備を急ぐ必要があります。

このことは畜産経営においても同様の傾向であり、飼養頭羽数における県下で占める割合は、採卵鶏一四・〇％を最高に、豚六・四％、乳用牛五・一％、肉用牛二・一％であり、それ程多くはありません。これを更に地域別に見てみますと、昭和四十年以降、早島町、山手村、清音村における各家畜飼養が急激に減少しており、逆に倉敷市及び総社市、真備町においては飼養頭羽数が増加し、一戸当たりの経営規模は、県平均を上廻ってきています。このため用地確保の困難性に伴う土地基盤の狭小により、家畜排せつ物の処理、粗飼料の確保が深刻な問題となり、施設改善や畜舎移転など、畜産環境改善にも積極的に取り組むことが急務とされています。

酪農については、倉敷市が第三次酪農近代化計画を樹立し、酪農振興を図っていますが、管内の約三分の一が市街化区域内で飼養されているため、種々の問題を抱えています。地域的な特色としては、倉敷市玉島陶（弥高山）において、草地・飼料畑を中心として恵まれた条件のもとに近代的酪農経営が期待されています。一方、水田を中心として野菜、粕類と有機的に結びついた都市近郊酪農が総社市井手、倉敷市水島、粒江等で行なわれています。しかしながら、全般的に土地基盤が十分とは言えず、購入飼料への依存度が高くなっていますが、水田転換による飼料作物の作付促進及び市町村サイレージ共励会或るいは、優良雌牛の導入等酪農経営の安定を目指し努力しています。また牛乳の消費拡大のため、各酪農組合が先頭に立ち、学校給食の完全実施への要望や牛乳料理講習会等地道なＰＲ活動が行われています。

肉用牛経営においては、飼養規模は県平均を上廻っていますが、これは飼養戸数と繁殖牛が著しく減少して、肥育中心の経営形態になったものです。当管内では総社市が肉用牛振興計画を樹立し、昭和地区において肉用牛集約生産基地育成事業をはじめ、農山村高令者婦人生きがい対策事業により肉用繁殖雌牛の導入を行い、肉用牛振興を図っています。

養豚においては、飼養戸数は激減しているものの、頭数では特に大幅な変動はなく横ばい傾向であります。これらの養豚経営の約六〇％が市街化区域内にあり、残飯を利用した経営が多く、悪臭や水質汚濁等の苦情が多い傾向にあります。

採卵養鶏においては、生産調整による凍結羽数の維持によって横ばい状態であります。地域的には、倉敷市玉島陶地区、総社市新本等で団地化され、しかも大型農家が多く、効率的な集団養鶏が営まれています。

肉用鶏は、わずか三戸に減少しており、特色は見られません。

以上のような特色を持ち発展してきましたが、都市化に伴う畜産環境問題、畜産物需給の不均衡、飼料価格の高騰等、畜産をとりまく厳しい情勢の中で、倉敷市を中心として、船穂町及び真備町に及ぶ広域の畜産経営環境改善のための畜産経営環境整備基礎調査を五十四年度から五十五年度にわたり、県が実施主体として調査を進めています。この調査結果にもとづき改善計画を樹立し、五十六年度以降事業実施を図って行きます。一方、総社市においても、今後の畜産主産地を目指し、県中部畜産基地建設調査計画を実施しています。

これら農用地造成のほか、水田利用再編対策による既耕地への飼料作物増産対策が進められています。また新らたに、省エネルギー技術促進事業に取組むほか、鶏卵計画生産推進指導事業、畜産コンサルタント事業をはじめ、管内全域にわたり各関係機関の協力のもとに、きめ細い畜産振興が図られています。



表１　市町村別主要農産物の粗生産額

単位：100万円

| 市町村 | 1位 | 2位 | 3位 | 4位 | 5位 | 6位 | 7位 | 8位 | 9位 | 10位 | 1位～10位計 | 粗生産額合計 | 1位～10位までの計粗生産額合額 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 倉敷市 | 米 5,881 | 鶏卵 1,199 | 生乳 808 | ぶどう 785 | もも 465 | れんこん 428 | い草 366 | 豚 353 | 鉢物類 326 | だいこん 318 | 11,929 | 14,334 | 76.2 |
| 総社市 | 米 2,846 | ぶどう 797 | い草 637 | 鶏卵 611 | 肉用牛 215 | 葉たばこ 179 | 生乳 163 | いちご 113 | なす 108 | 豚 103 | 5,772 | 6,595 | 87.5 |
| 早島町 | 米 284 | い草 62 | ぶどう 24 | だいこん 4 | 大豆 2 | さといも 2 | ねぎ 2 | ほうれんそう 1 | かんしょ 1 | ごぼう 1 | 383 | 410 | 93.4 |
| 山手村 | 米 251 | セルリー 228 | ぶどう 89 | い草 50 | 温室メロン 40 | きゅうり 33 | もも 18 | かき 12 | なし 5 | しょうが 4 | 730 | 770 | 94.8 |
| 清音村 | 米 265 | 二条大麦 46 | い草 34 | ふき 22 | 生乳 18 | いちご 18 | かき 5 | 大豆 4 | キャベツ 4 | 乳牛 4 | 420 | 466 | 90.1 |
| 船穂町 | ぶどう 1,085 | 米 196 | だいこん 193 | にんじん 50 | スイトピー 43 | れんこん 36 | ごぼう 31 | もも 29 | 生乳 17 | 鉢物類 16 | 1,696 | 1,814 | 93.5 |
| 真備町 | 米 1,022 | 鶏卵 359 | ぶどう 251 | たけのこ 153 | い草 150 | ブロイラー 59 | もも 57 | 豚 39 | 葉たばこ 38 | だいこん 38 | 2,166 | 2,459 | 88.1 |

（資料　中国四国農政局統計情報部編集　昭和53年岡山県の生産農業所得より）

表２　管内の家畜飼養状況

昭和54年２月１日

| 区分／市町村名 | 乳用牛 戸数 | 乳用牛 頭数 | 肉用牛 戸数 | 肉用牛 頭数 | 豚 戸数 | 豚 頭数 | 採卵鶏 戸数 | 採卵鶏 羽数 | 肉用鶏 戸数 | 肉用鶏 羽数 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 倉敷市 | 102戸 | 2,118頭 | 12戸 | 90頭 | 45戸 | 4,250頭 | 573戸 | 408,900羽 | ×戸 | ×羽 |
| 総社市 | 22 | 330 | 75 | 779 | 10 | 912 | 115 | 207,500 | － | － |
| 早島町 | － | － | － | － | － | － | － | － | － | － |
| 山手村 | × | × | － | － | － | － | × | × | － | － |
| 清音村 | × | × | － | － | × | × | × | 8,500 | － | － |
| 船穂町 | × | × | × | × | × | × | × | × | － | － |
| 真備町 | 3 | 62 | 3 | 4 | × | × | 22 | 212,000 | × | × |
| 管内計（1戸当り） | 127 (19.76) | 2,510 5.1％ | 90 (9.7) | 873 2.1％ | 55 (93.85) | 5,162 6.4％ | 710 (1,178) | 836,900 14.0％ | × | × |
| 県計（1戸当り） | 2,788 (17.85) | 49,760 | 10,871 (3.81) | 41.405 | 917 (90.15) | 82,673 | 5,330 (1,104) | 5,887,000 | 167 (14,443) | 2,412,000 |

（資料：農林水産省統計調査部調）
「－」の符号は事実のないもの
「×」の符号は秘密保護上統計数値を公表しないもの

## 岡山県酪連人事異動

岡山県酪連は去る五月二六日の総会で新役員が選出され、六月七日の理事会で新会長が互選されました。

（退職）
会長　花尾　省治
（新任）
会長　渡辺　明喜

## 訂正及びおわび

岡山畜産便り前月号の岡山県畜産課人事異動（Ｐ－15）で、養鶏試験場の欄に誤りがありました。おわび申しあげますとともに、左記のとおり訂正いたします。

養鶏試験場
業務部長　諏訪　一男
専門研究員　岩本　敏雄
〃　高橋　彰
〃　上野　満弘
研究員　古市比天司
〃　上林　峰治
〃　大本　勲
〃　花尾　貞明
技師　山下　政道
〃　北村　直起

家保のページ

# 管内情勢について

岡山家畜保健衛生所

家畜保健衛生所法が制定されて今年で三〇年を迎え、去る一月二四日、岡山市において盛大に記念式典が挙行されたことは、既に御承知のとおりである。戦後、農業の一部門を背負う畜産は、国民の貴重な動物性蛋白資源として、重要な位置づけをされており、年々着実にそのウェイトを高めてきた。その結果、多頭化、専業化が進められ、更に最近は企業化へと移行するものさえ出現している。大きな資本投下でスケールメリットを求める当然の姿ではあるが、必ずしも期待通りの成果を得ていない例も見受けられる。価格が安定的でないとか、諸物価に較べて安過ぎるという面もあるが、それにもまして事業体そのものを管理出来ていない理由によることが多いのではなかろうか。生産物の安値等の状況下で、農業を、又畜産を改めて考えてみることは非常によい機会でもあろう。

さて当所は、岡山市、玉野市、備前市、御津郡、赤磐郡、和気郡、邑久郡、児島郡の三市五郡一六町を管轄し、和気町に東備家畜衛生センターを設置している。管内総面積は、一、七八九・五六㎢で、県全体の約二五％を占めている。総世帯数は、二三九、五〇五戸、総人口は、七七七、九七六人で、いずれも県全体の約四三％に当たり、人口密度は一㎢当たり四四〇人の過密地帯になっている。農家戸数は、総世帯数の一九％にすぎず、そのうち専業農家は、九・九％で、大部分は兼業農家である。農業粗生産額は、県全体の三三％に当たる六六二億六、七〇〇万円で、うち畜産物は一四二億九、五〇〇万円で二一・六％を占めている。畜産物粗生産額のうち、乳用牛四一・三％、五九億一、〇〇〇万円、肉用牛一〇％、一四億二、六〇〇万円、豚一二・三％、一七億五、二一〇〇万円、鶏三六・一％、五一億五、八〇〇万円、その他となっている。

次に飼養状況であるが、乳用牛は、岡山市、邑久郡を中心に一部の町を除く管内全域で飼養されており、一戸平均一六・九頭、特に御津町、建部町においては、大型草地酪農として、各々一戸平均七八頭、四三頭が飼養されている。反面、和気郡、赤磐郡においては、飼養戸数、規模的にも比較的小さい。

肉用牛は、年々飼養戸数、頭数ともに減少し、御津郡、赤磐郡の一部において繁殖経営が行われているが、いづれも、飼養規模は小さく一～二頭飼いである。一方肥育経営は、御津郡、邑久郡、赤磐郡、和気郡を中心に飼養されているが、大部分は、乳用雄肥育で、飼養規模は、一戸平均一〇頭となっている。

豚は、岡山市、赤磐郡、和気郡で飼養されており、近年一貫経営農家が増加し、五〇％以上を占めている。長船町における清浄豚は、その生産性も高く、好成績をあげている。

養鶏は、採卵鶏が大部分を占めており、岡山市、赤磐郡、和気郡を中心に管内全域に散在して飼養されている。五十四年には、牛窓町鹿忍に全国養鶏センター岡山育成農場が完成し、年間二二万羽の大すうを県内農家へ供給する計画である。種鶏については、六カ所の種鶏場で、一九万九、〇〇〇羽が飼養されている。和気町、熊山町には、ひなの輸入検疫場が設置されており、年間五万羽程度が厳しい検疫を受けている。一方ブロイラーの飼養状況は、全域で、二六万七、〇〇〇羽が飼養されているにすぎない。

以上が管内畜産の概要であるが、都市化の進展による立地条件の制約、飼養規模の大型化にあって、地域性に対応した家畜伝染病の防圧に努めている。飼養環境の悪化、多様化する伝染性疾病の発生を未然に防止し、農家の衛生思想の向上に努め、加えて安全な畜産物を供給するため、薬事指導の強化、環境汚染防止対策の指導、特に県内地域の実態に即応した衛生対策を図りつつ、地域社会との調和と安定した畜産経営のため次の業務を推進している。

## ア、家畜伝染病及び伝染性疾病の予防

管内におけるブルセラ病及び結核病の発生は、漸次減少の傾向にあって、すでに七カ町は、清浄地域の指定を行い、隔年検査により、これらの発生防止に努めている。寄生虫、ひな白痢病検査及びニューカッスル病を始めとする各種抗体調査は、定期的に実施するほか、マイコプラズマ病、トキソプラズマ病、豚の萎縮性鼻炎等の検査を重点的に実施することにより、農家の要請に応え、これらの損耗防止に努めている。予防注射については、牛にあっては流行性感冒に加え、四十八年以降発生のみられるアカバネ病の予防、豚にあっては、一貫経営が五〇％を占めるなかで、流行性脳炎を対象に注射の徹底を図り、その生産性の向上に努めている。また、貿易の自由化に伴い、多様化する疾病、海外伝染病の防圧を図るため、ひなの輸入検疫を実施している。密蜂のふそ病検査は、県外移動のための検査が主体で、近年、管内には、発生は皆無であったが、五十四年に、赤磐郡で一戸、三九群が罹患し、まん延が危惧されたが、関係機関の協力を得て、続発もなく終息した。

## イ、家畜衛生普及強化事業

地域畜産の動向に対処するため家畜保健衛生所が中核となり、畜産関係機関及び諸団体の協力を得て、地域における家畜衛生技術の浸透、定着を図るため次の事業を行っている。

**(1) 家畜衛生サーベイ事業**　と畜場及び食鶏処理場段階における家畜衛生情報を収集し、これにより管内の家畜衛生状況を的確には握し、適切な家畜衛生対策の確立、飼養者に対する指導の充実を図っている。

**(2) 特別指定疾病調査事業**　本年度は、養豚経営の発展を阻害する衛生上重要な疾病について調査している。

**(3) 空胎防除特別指導事業**　牛の空胎による生産性の低下を防止し、経営の安定と健全な発展に資するため、繁殖障害防除に必要な検査を実施している。

**(4) 家畜防疫情報システム化事業**　モニター農家を通じて管内の家畜衛生情報を収集できる体制を整備することにより、効果的な衛生対策を樹立している。

**(5) 家畜飼養衛生環境改善特別指導事業**　管内の牛、豚及び鶏の飼養農家を対象に巡回指導を実施することにより、時期的に発生が予測される疾病について対策を講じている。

**(6) 要指示医薬品適正使用特別対策事業**　安全な畜産物を生産供給するため、残留、毒性等に関する知識、技術習得に必要な研修会を開催している。

## ウ、病性鑑定事業

多様化する家畜疾病に対応するため、獣医師及び飼養者等の依頼を迅速かつ的確に診断し、適切な指示、指導を行い、損耗防止に努めている。

## エ、経済衛生指導事業

戸別巡回指導を強化する一方、適地における重点的濃密指導による他地域への波及効果を図っている。乳質改善指導事業、繁殖障害防除事業、牧野衛生指導事業、酪農経営総合改善指導事業等について積極的に取り組んでいる。

## オ、環境保全対策

畜産による環境汚染が多発するなかで、市街地周辺を重点に、関係機関との連繋、協調を保ち乍ら、これらの実態を調査し、ふん尿の有効利用技術の普及等に努めている。

## カ、生乳検査事業


土地を有効に活かす。ミミズ養殖！

専属養殖者"募集"　貴方のご期待にお応えできる産業です。

あなた ⇄ 東日本更生殖産
（出荷）増殖ミミズ及び糞土
（適正価格・現金引取）
種ミミズ・技術指導

先ず１万匹からはじめてみませんか

改良新種　１万匹　80万円

◎４ヶ月で約６～10倍。１万匹が１年間で200倍以上に

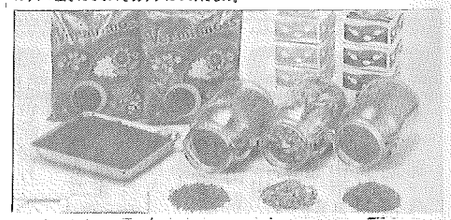
◎土地は300㎡～500㎡でＯＫ!!

◎減反問題でお悩みの方，土地を有休させてる方
出稼ぎ問題・過疎対策，高齢者対策として，
産業廃棄物処理・牛豚・馬鶏等家畜糞処理で
お困りの方，新しい事業としてお考えの方，
これらの問題を解決するミミズ養殖にチャレンジしてみませんか。

◎当社は技術指導及び買取り保証の約定書を差上げております。

●当社のパイオニア技術で、ミミズの食品開発に成功！
各分野から大きな注目を集め、近々、一斉発売の予定。

●当社の開発製品群　●バーミーパウダー：ミミズの粉末。●バーミーフレーク：ミミズの粉末をフレーク状にしたもの。●バーミーペレット：ミミズの粉末を小さな固型にしたもの。●バーミーミンチ：ミミズをミンチ状にしたもの。●バーミーチューブ：ミンチ状にしたものをチューブにつめたもの。●バーミーモス：ミミズの糞土。●バーミーカップ：生きたミミズをカップにつめたもの。



・資料ご請求の方は切手500円分同封の上，下記へお申し込み下さい。

東日本更生殖産㈱
四国支店
〒763 香川県丸亀市大手町（大手町ビル７Ｆ）
☎08772(4)1221(代)

生乳格付のための脂肪率の検査及び細菌検査を定期的に実施し、流通の適正化と安全食品の供給に努めている。

### キ、畜産関係技術者の研修指導

管内の獣医師、家畜防疫指導員及び家畜人工授精師等の研修を行い、衛生知識の向上を図るとともに、指導体制を確立する。

### ク、自衛防疫対策

ニューカッスル病、マレック病、豚コレラ、豚丹毒、豚萎縮性鼻炎、牛の伝染性鼻気管支炎等の家畜畜産物衛生指導協会が実施している予防事業を推進するための自衛組織の育成強化を図っている。

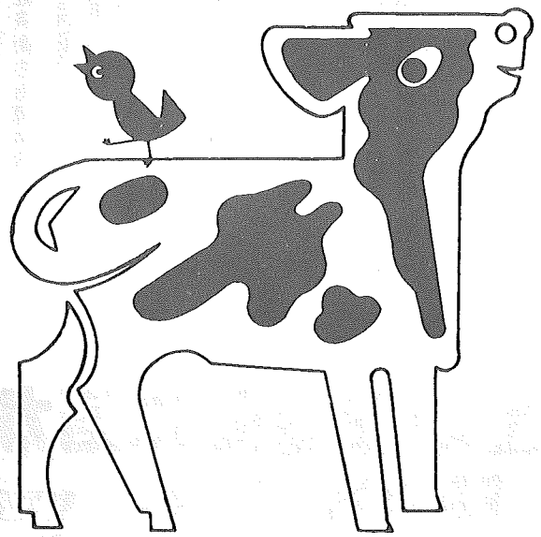
終りに、畜産経営が大型化、高度化した今日、畜産経営を誤りなく運営するには、綿密な経営計画に加え、的確な判断、資料が迅速に得られることが必要である。それと同様に、多様化する疾病、飼養形態の大型化した昨今、正確迅速な情報が防疫計画の立案に非常に重要になっている。畜産農家の財産である家畜を疾病から守り、或るいは被害を最小限にとどめ、健全な畜産経営に寄与することは家畜保健衛生所の大きな使命であることは論をまたないと同時に、衛生を通じて地域社会に貢献出来ることが、所員一同の喜びでもある。どうか今後とも、一層の御支援、御指導をお願いしたい。


乳は国産 エサは全酪

団結は力！
系統利用は団結の象徴

最高の水準をゆく全酪連乳用子牛育成体系
(乳牛の飼料は専門の全酪連におまかせ下さい)

主要取扱品目
専管，増産ふすま。外国大麦飼料。
カーフトップ。脱粉飼料。カーフスターター。
幼牛用，搾乳用配合飼料。
その他酪農用飼料資材全般。
市乳，バター，チーズ，練乳，粉乳。



日夜酪農民の利益増進に奉仕する酪農専門農協！
全国酪農業協同組合連合会


## 後記

今月は県畜産課より本年度の重点施策、養鶏、酪農、和牛の三試験場からは、本年度の試験研究の方向と重点課題を紹介していただきました。また団体では経済連の畜産部より本年度の事業計画を、酪連からは生乳の計画生産について、紹介していただきました。参考にしていただければ幸いです。

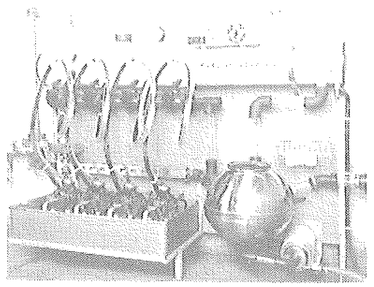
「畜産便り」も今月号から新編集計画にそって編集を進めていく予定です。新しく、経営紹介、私の発言等、新しいページを計画しております。ご声援ください。


岡山畜産便り（五・六月号）
第三巻 第五号
（通巻三一七号）
昭和五十五年五月二十五日
発行人 花尾 省治
編集人 竹原 宏
発行所 岡山市磨屋町九－一八
岡山県農業会館内
岡山県畜産会
電話・岡山㉒八五七五番
振替・岡山 八五七五番
印刷所 岡山市丸の内二－一一
ふじや高速印刷所
電話・岡山㉕四九五一番
定価 一部一八〇円（送料共）





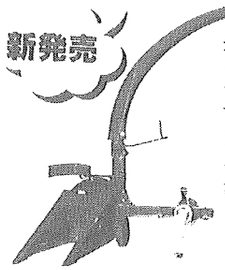
オリオンローラインミルカー



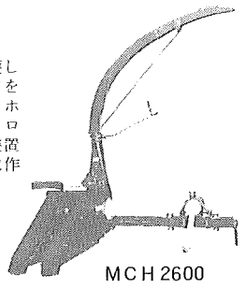
安全な搾乳真空圧
- 搾乳真空圧は330㎜Hgです。
- 乳頭から処理室まで乳が自然に流れます。
- 立ち上がり部分がありません。
- 太径ガラスパイプを使っています。

ORION

新発売
コーンハーベスタ
コーンを能率よく収穫して，良質なサイレージをつくります。サポートホイール・リヤヒッチ・ロングシュートは標準装置であり，安定した刈取作業ができます。



MCH2200

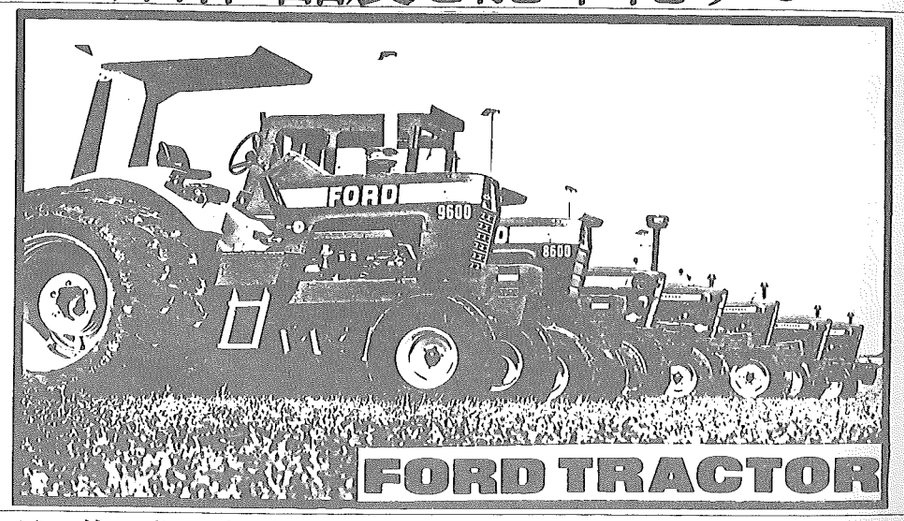


MCH2600

| 型式 | 機体寸法 | | | |
|---|---|---|---|---|
| | 全長 mm | 全巾 mm | 全高 mm | 重量 kg |
| MCH2200 | 2320 | 2180 | 2940 | 350 |
| MCH2600 | 2830 | 2450 | 3400 | 550 |

岡山市米倉121の4(保崎ビル内)
スター農機株式会社
岡山営業所
TEL (0862) 43－1147～8

畑作・酪農を能率化する




酪農畜産機器 総合商社
株式会社 小六

| | | |
|---|---|---|
| 本社 | 岡山市福成2－14－23 | (0862) 63－1221㈹ |
| 落合営業所 | 真庭郡落合町上市瀬165－2 | (08675) 2－3364 |
| 金川営業所 | 御津郡御津町金川337 | (08672) 4－0143 |
| 津山営業所 | 津山市志戸部712 | (08682) 2－1561 |